

安んずる社会

長崎県立豊工高等学校

二年 永留 謙 郎

福祉とは、誰もが安心して自分らしく生き
られる社会を築くためのものですね。それは、
特別な誰かが行う専門的な活動だけでなく、
私たちの日常生活の中に溶け込んでいる、こ
く当たり前の思いやりから成り立っている。
例えば、地域で暮らすお年寄りが重い荷物を
持つて困っている手を差し伸べる、道に迷

っている人がいたら親切に教えてあげる、こ
うした些細な行動も、立派な福祉とも言える
でしょう。困っている人への心を寄せ、手を
差し伸べることは福祉の原点です。私は考
え、福祉という、介護士やソーシャルワ
ーカーといった専門職を思い浮かべるかもし
ない。もちろん、こうした専門家の存在は不
可決です。しかし、福祉を支えているのは、
それだけでなく、専門家だけではありませ
ない。私たち一人ひとりが、それだけの立

でできることを行う。その積み重ねが社会全
体の大きな力となります。

ボランティア活動に参加したりすること

福祉の一環です。地域の人々と交流を深め、

顔の見える関係を築くことで、困ったときには

助け合える。互助の輪が広がります。孤立

しかな現代社会において、こうした地域の

つながりは、人々の心を支える大切な基盤と

なります。

「情けは人のためならず」

このことめざましく、私には福祉

に対する考えが変わりました。福祉とは、誰

かに何かをしてあげるという一方的な関係へ

はなく、お互いの存在を認め合い、尊重し合

うことなのだと。私たちは皆、いつか誰かの

助けを必要とするかもしれません。だからこ

そ今、自分が誰かの役に立てることがあれば

積極的な行動すること大切です。

誰かに親切にすれば巡り巡って自分に返つ

てくるという前述の言葉は、福祉の本質を言

い表ししているように感じます。誰かのために
した行動は巡り巡って自分自身の幸福にもつ
ながる、そうした循環こそが、心豊かな社会
を築くうえで不可欠な要素です。
誰もが安心して、自分らしく生きらる社
会は、特別な誰かがつくり出すものにはあり
ません。私たち一人ひとりの小さな思いやり
と行動の積み重ねによって実現できるもので
す。それから、私は自分にできることを増
やしていきたいと思います。